

# COTO TSLUSHIN

発行 / 滋賀医科大学同窓会湖医会  
〒520-2192 大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内  
TEL 077-548-2074, FAX 077-548-2094  
E-mail: koikai@mx.biwa.ne.jp  
koikai@koikai.org

湖都通信 40号

Since 1987, Editor Takehiro Inui,  
Co-editor Takashi Kadowaki,  
Tetsunobu Yamane  
印刷 / 昌栄印刷 2002.10.5

## 第1回『湖医会賞』授賞式と 受賞者による記念講演会

日時 ; 10月26日(土)  
午後1:00 ~ 3:30  
場所 ; 臨床講義棟第3講義室

1:00 ~ 開会  
『湖医会賞』授与式

1:30 ~ 受賞者記念講演会  
埴田和史氏  
「人権としての医学・医療を学生とともに学び続ける」  
井上慶郎氏  
「単科精神科病院における地域医療」

3:30 ~ 閉会

実りの秋、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか？  
定期総会が10月26日(土)に行われますが、それに先立ち  
第1回『湖医会賞』の授賞式と受賞者による記念講演会(若鮎  
祭実行委員会共催)が学内で行われます。会員のみなさん  
ぜひ同窓生の活躍振りを聴きにきてください。  
今回の総会はとても重要な意味をもっています。「大学の  
現状」の中で吉川学長が指摘している通り、いよいよ我々が  
滋賀医大に大きな変化の波がやって来ます。この時期にあ  
たり、我々湖医会はどういう立場をとるのか、その基本  
方針を討議し、確認しておく必要があると考えているから  
です。

吉川学長にお忙しい中、大学の現状についてご執筆いた  
だきましたので一読ください。  
そして、一名でも多くの会員の総会出席と、建設的な意  
見を、是非ともお願いする次第です。

会長 渡辺一良

# 第16回 総会 2002年度 ご案内

日時 2002年10月26日(土)  
午後4:00 ~ 5:00

場所 臨床棟第3講義室  
議案

1. 2001年度の事業報告  
決算報告
2. 2002年度の事業計画案  
予算案
3. その他

\*これに先立ち『湖医会賞』の授賞式・  
記念講演会(別記)があります

同封のがきで出欠をご連絡ください  
10月23日(水)必着

## 大学の現状 法人化を中心に

当面している最大の課題は大学の「法人化」と「統合・再編」です。特に、「法人化」については平成16年4月からのスタートがほぼ確定的であり、本学でも全学的な体制で準備を進めております。来年1月には通常国会に関連法案が提出される予定ですので、現段階ではなお不透明な部分がいくつか残されており、各大学の自主性・自立性が如何に保証されるか、国からの運営費交付金などの程度になるのか、地方自治体からの協力が法的に可能となるのか、と云った課題が未解決です。いずれにせよ教職員はすべて公務員ではなくすることは間違いないようです。民間会社と同様に教職員組合と大学との間で労働協約を結ぶことなど大学毎に処理しなければならぬ課題が山積しております。文部科学省や国立大学協会と相談しながら試行錯誤の日々が続くのではないかと感じておりますが、同窓会諸氏からの一層のご支援が不可欠であり、是非よろしくお願い致します。

「統合・再編」については、マスコミ等で報じられている如く、教員養成系学部・大学の統合・再編が大きな難題となっております。話し合いはあまり進んでおりません。法人化後にずれ込むのではないかと予想しております。

明るい話題としては、本年4月に動物実験施設が、動物生命科学センターに昇格致しました。分子神経科学センターに次いで、新設医科大学では初めての、二つ目となる学内共同利用施設です。ES細胞や遺伝子治療研究の牽引的役割を果たしてくれるものと期待しております。また、7月には世界の超一流学術雑誌であるNature Genetics誌に10期卒業生である茶野徳宏助手(滋賀医大検査部、本誌2頁記事掲載)の新しい癌抑制因子に関する論文が掲載されました。滋賀医科大学の歴史の中で最も評価の高い研究成果であり、まことに嬉しい限りです。若い力が続々と後継者に続くことを期待している次第です。

滋賀医科大学長 吉川隆一

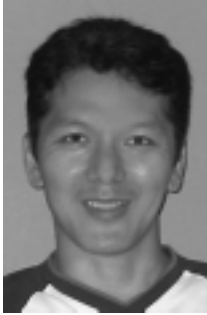
### 主な記事

私の研究..... 2  
在任中の思いで..... 3  
関東支部会報告記..... 4

議事録(総会資料)..... 5  
Essay Have a Nice Baby..... 6  
学生のページ / 若鮎祭..... 7  
LITTLE WINDOW..... 8

# RB1CC1で遭遇した幸運

ちょっと違ったことがしくて始めた研究だけど・・・



滋賀医科大学附属病院検査部

助手 茶野徳宏 (医・10期生)

## 滋賀医大初、Nature Genetics誌に論文掲載

学生時代、覚えていることは西医体でメダルをとりたくて必死で練習したこと。“まともな医学生”はいやで馬鹿ばかりやっていたこと。人の話を座って聞いているのが嫌だったので講義の記憶はないが、生物学や生化学の実習は少し楽しかった。定期試験、国家試験の前は勉強していたはずだが、これもほとんど忘れてしまった。医者になってから診た患者さんに関する知識は今でも残っているが、結局、自分で悩んで考えたもの、からだを使ったものだけが残っているようである。

研究は大学院から数えると12年目になるが、自分でやりだしてからは7年なので駆け出しである。大学院の頃は指示された内容でひた走ったが、少し世界と話をしたくなって、学生時代のようにちょっと違ったことをしたくなって、今の研究をはじめた。当時は重要な未知遺伝子が見つかりそうだった。しかし5年近くまともなものは拾えなかった。そのうちゲノムはどんどん明らかになって、自分の入る余地などないようになり、かなりしんどかったが、臨床(手術)からも離れて長かったので、何とかするしかなかった。やっと3年程前、機能等ほとんど知られていない遺伝子と出会った。これを扱う研究者もいなかったし、初期の実験結果はRB1がん抑制遺伝子との関係を示唆した(ように“思い込んでいた”)の

で、この遺伝子について続けることにした(これしかなかった)。

ヒト、マウスの遺伝子クローニング、発現、機能の解析等、1人で大変だったが、関連研究もなかったのとにかく体で動いてデータをとった。体を使うのは得意だった。そのうち外科の紺谷先生が遺伝子導入を手伝って下さり、形になってきた。遺伝子には番号しかついていなかったの、名前を付けなければならなかったが、機能が多少なりとも分からないと遺伝子名は認めてもらえない。はっきりとした機能を示唆していたにも関わらず、認めてもらえない日々が続いた。これまで遺伝子クローニングに実績のない我々からでは難しい点もあったが、理研の池川先生に教えてもらうようになってまた進みだした。後で聞いた話、最後は先生が動いて下さり、問題がいくつか解決したらしい(科学は100%デモクラティックでもない)。とにかく、RB1を誘導する遺伝子RB1CC1(RB1-inducible Coiled-Coil1)という国際名に至った最初の論文が認められた。RB1CC1は乳癌におけるがん抑制遺伝子の存在領域に一致しており、続いてRB1CC1の変異、発現解析を行うことにした。幸運なことに、ここはpopularなhot spotsでもなく、しかも紺谷先生が数年前から乳癌組織数十例を液体窒素の中に保存していただけたのである。昨

年7月から仕事を始めたが、週に何回か学生(ハンドボール部の後輩)が手伝ってくれるようにもなり、自分も学生に刺激されて勇気が湧いた。最も幸運だったのは彼らの出すデータが“がん抑制遺伝子RB1CC1の変異は乳癌のがん化を促進させる”という仮説にかなったものであった。半年でこの論文はまとまった。最初のRB1CC1の論文がなかなか認められなかったのも結局はついており、ようやく発表された今年の2月には既に乳癌の論文は審査にかかっていた。もちろんここ数年寿命を縮めるほど働いたが、考えるとより多くの幸運、仲間にも助けてもらったようだ。

RB1CC1の研究はこれからである。以前よりましなことに時々学生が来てくれ、他大学にも少し仲間が増えた。乳癌の解析は、Nature Geneticsに載り、新聞、ニュースでも取り上げられたが、学生が“一所懸命やってラッキーが重なったらNatureにも載るんやな”と感じてくれたことが最もよかった。少し違うことがしてみたくて始めた研究であるが、誰かにやる気がつながり、もしかしたら少しは医学にも役立つかもしれない、そんな期待もてる研究を今後も続けてゆきたいと思っている。

## 教えるということ



前生命科学講座（化学）  
安藤 喬志

学生を成人として扱うことは、医学部に多い高学歴者には受けが良かったと思うが、高卒現役や一浪の学生にはどうだったのだろうか。もっと子供扱いしたほうがよかったのかもしれない。

私自身は、生徒を紳士として扱うという高校に育ち、化学者として持った3人の指導者は細かなことに口出ししない先生ばかりであった。有名化学者が全部そうというわけではなく、二つのタイプがあるということだろう。

この3月、19年間に及ぶ滋賀医大での教官生活を終えた。学位を取って助手となってからなら37年間ということになるし、それ以前の大学院生の頃から後輩の指導をしていたから、教えるということでは40数年間ということになる。しかし何年やつても、人を教えるということは難しい。

学生とどれだけの距離を保ち、どのような態度で接するのが、学生の成長にとって望ましいのだろうか。若いころは、手取り足取り、何から何まで口出しをして、学生がいろんな技術や能力をつけていくことばかり考えていた。

それは学生を一人前としては扱わないことにも通じるのであるが、間違いなく能率的だし、それが良い指導者だと思っていた。しかし、その後歳を取ると、

滋賀医大ですとそうだった。

今年ワイルドカップで日本国中太りに沸いた。6月はちょうどヨーロッパにいたが、外国にしていると不思議に愛国的になるもので、日本の予選リーグの成績に一喜一憂した。帰国後決勝トーナメントになったが、日本はあっさりと負けてしまった。ワイルドカップのあと新聞で沢木耕太郎が批評を書いていて、選手を「私の子供たち」と呼ぶトルシエ監督が、選手が自立しつづけることを認めようと思わず、選手を信じたこと、と述べていた。

私は1975年4月、滋賀医大の開校とほぼ同時に赴任してまいりました。当時は現在の大学の建物があるところはまだ灌木の茂っている丘陵でありました。翌年には基礎研究棟、さらには臨床研究棟ができ、臨床はともかく、実験研究はできるようにになりました。教室員も教授、助教、助手1名の小さな所帯でありましたので、薬理学の宮崎助教現（大阪医科大学薬理学教授）、第2外科の森助教現（元滋賀医大第2外科教授）、と私第1内科助教現（滋賀医科大学名誉教授）の3名が集まり、共同研究をすることにになりました。当時は現在の附属動物実験施設のごとき立派な鉄筋コンクリートの施設でなく、小さなプレハブの動物舎であり、イヌを保健所から無料で分けてもらい、飼育してもらっていました。それでもイヌは必要なだけ搬入されてい

## 動物舎（医学部附属動物実験施設） の思い出



前内科学第1講座教授  
（現、矢橋中央病院院長）木之下 正彦

ましたので、動物舎に収まりきれないイヌは動物舎の周囲に檻をつくり、収容されてきました。したがってイヌが啼くと附属病院に入院している患者さんにはうるさかったのでしょうか。苦情がわれわれの方に寄せられていました。また動物舎の主任技官であった内田さん（定年退職）からの懸命のお世話にもかわからず、ときどきイヌが血性下痢を発症して死亡することがありました。感染症を疑い、イヌの実験をしている研究者が総出で動物舎の床洗いを、長靴を調達して行ったこともありました。したがって、当時は内田技官には病棟の師長以上に毎日情報交換等でお世話になりました。

講座を超えて共同研究をしてよかったことは、各研究者の興味あるテーマと方法論を生かせることでしょ。研究テーマにしたことは、当時ようやく臨床に應用され始めてきた大動脈バルーンパンプ（EABP）の有効性についてと、わが国で開発された海のものとも山のものともわからないカルシウム拮抗薬の心筋虚血に対する効果であった。宮崎助教現の指導でマイクログラフアを使うて心筋局所血流を測定して、虚血を改善するかということである。幸いに、EABPもカルシウム拮抗薬も実験的に非常に有効であることを明らかにして3、4編の英文論文を共同で出版できました。今のようによい時代では夢のような話かもしれませんが。

# 関東支部会報告記 vol. 4

国立国際医療センター

金子 節志 (看 2 期生)



先日、医学科の同級生に誘われ、関東支部会に参加させていただいた。懐かしい先輩、後輩に会えたことに加え、6年ぶりに井戸先生の人文地理学の講義を聴くことができたのだった。先生の滋賀県に対する「溺愛」ともいえるほどの愛情に満ちた講義を聴かせてもらい、私は滋賀県がとても懐かしく思っていた。そして、会場に集まった先生方も皆同じような感想をもたれていたようで、とても和やかな雰囲気にもまれていた。私は「関東支部会にはどんな先輩が来られるのか、会場の品川プリンスホテルとはどんな凄いホテルなのか、追い出されやしないか・・・」など、一人で勝手に心配してしまい、いつも参加できずにいたのだが、河崎先生はじめ、先生方に看護学科卒業生も参加し易いようご配慮頂いたことで、懐かしく楽しいひとときを過ごせたのではないかなと思う。今回参加していた看護学科の卒業生は4名だったが、次回はより大勢の卒業生と懐かしい話や、それぞれの現況を語り合うことができたらいいと思う。

今年で4回目の関東支部会総会(7月13日)に、4人の看護学科卒業生が初参加。柴田宏明氏(4期生)の司会で井戸先生を囲んで30名の同窓生が和やかなひとときを過ごしました。参加者の感想を紹介します。

信州大学 整形外科

高橋 淳 (医・12期生)



関東支部会は7月に東京の品川プリンスで開催され、今年で4回目になります。関東支部といえども、私のように信州から参加した者もいれば、今年はなんと看護学科卒業生で北海道から参加されていた女性もおられました。東日本支部と名称を変えた方が良いかもしれないと思います。私は現在信州大学整形外科の脊椎班に所属していますが、日々の忙しい仕事の息抜きとして、また、担任をして頂いた井戸庄三先生が講演をなされるということで先生にお会いするのを楽しみに、今回初めて参加させていただきました。井戸先生には10年振りにお目にかかり、1%県から始まって滋賀県の現在・過去・未来について有意義なお話を伺い、学生時代に戻ったような気分になり、改めて滋賀県の良さを知りました。また、先輩の諸先生方に仕事、趣味のお話をお聞きし、非常に参考になりました。今後とも、この会が継続し、参加者が増えていくことを願っております。

来年もよろしく・・・  
早川さん(看、2期)



国立国際医療センター

山下 敬 (看 5 期生)



藤さん(看、5期)は札幌勤務

井戸先生、楽しいお話を  
ありがとうございました



全員集合!



川口氏(医、21期)・大関氏(後3、  
医、22期)受付ご苦労さまです

今年の3月に卒業し、新宿の国立国際医療センターに勤務し始めてそろそろ4ヶ月が経とうとしていた頃、関東支部会のお誘いを頂きました。看護学科の卒業生としての参加は初めてということで少し緊張しましたが、楽しい時間を過ごさせて頂きました。

初めてお会いする先輩方に囲まれながら、井戸先生の懐かしい講義さながらの講演を聞き、滋賀の思い出話に花を咲かせることができました。また、数々の臨床経験を積んでこられた先輩方の話はとても興味深く、今後私が看護をしていく上でも、良い勉強になったと思います。

故郷を離れ東京へ修行をしに出てきた私ですが、関東で母校の新たな人間関係を築くことができ、大変嬉しく思っております。まだまだ卵のカラーが取りきれないヒヨコではありますが、今後とも御指導の程宜しくお願い致します。また、関東で活躍しておられる看護学科卒業生の皆さん、関東支部会への参加をお待ちしております。

主に2002年度の総会に向けての話し合いが行われました。  
幹事会で承認された総会用の資料を掲載いたします。

< 2002年度総会の主な資料 >

1. 2001年度事業報告

1. 湖都通信の発行・・・第37号、第38号、第39号
2. 勢多だよりの購入発送・・・第57号(会費完納者のみ) 第58号(全員)
3. 「大学フォーラム」に参加・・・'01.11.24 中島・金子副会長が出席
4. 若駒祭へ寄付・・・'01.9 20万円寄付
5. 第1回湖医会賞決定・・・'02.1 3期生埴田和史氏・8期生井上慶郎氏・・・受賞講演は、翌年度若駒祭にて
6. 大学幹部との交流・・・学長との懇談会を行った '02.1.26 記念誌掲載特別座談会
7. 滋賀医学国際協力会に参画・・・'02.2.1/'02.6.18 九嶋副会長出席。10万円寄付、卒業生への寄付依頼文の発送協力(発送費 80 x 2000=160,000)
8. 大学公開講座への協力・・・'02.1.24 予防医学講座の公開講演会を後援。謝礼 2万円、奥村芳孝氏(スウェーデン在住)
9. 1期生同期会・・・'02.2.23、びわこホテルで(35名出席)  
11期生同期会・・・'02.2.23、びわこホテルで(38名出席)
10. 卒業生祝賀会・・・'02.3 10万円・・・今回より同窓会主催
11. 卒業式と入学式に参列・・・卒業式 '02.3.25 九嶋副会長が出席  
祝賀会 '02.3.25 九嶋副会長・埴田副会長が出席  
入学式 '02.4.8 永田副会長が出席  
大学院宣誓式 出席者無し
12. 新入生にオリエンテーション・・・'01.4.10 永田副会長が出席
13. 新入生歓迎委員会へ寄付・・・'02.5 10万円寄付
14. 関連病院長会議に出席・・・'02.6.7 渡辺会長、永田副会長が出席
15. 第2回看護学科卒業生と学生の交流懇談会・・・'02.6.22 5万円寄付
16. 第4回関東支部会開催・・・'02.7.13(32名) 10万円補助
17. 20周年記念誌「湖医会 第5号」'02.7発行・発送
18. 湖医会カードの拡充・・・'02.8.31 湖医会JCBカード提携終了のためVISAカードへの加入を呼びかけ
19. 記念名簿発行準備作業開始 '02.8
20. 学外卒業生向けの図書館利用案内・・・今年度案内は無し
21. 特別な理由による就学困難な準会員を補助する事業

2. 2001年度事業計画(案)

1. 湖都通信の発行
2. 勢多だよりの購入発送
3. 滋賀医学国際協力会に参画
4. 卒業式と入学式に参列
5. 新入生にオリエンテーション
6. 支部会への援助
7. 湖医会カードへの援助
8. 関連病院長会議に出席
9. 大学フォーラムに参加
10. 学生とのフリーターキング・・・同窓会に対する考えを聞く会をもうけてはどうか
11. 若駒祭へ寄付
12. 新入生歓迎委員会へ寄付
13. 学外卒業生向けの図書館利用案内
14. 同期会開催・・・卒後20年は医学科2期生・卒後10年は医学科12期生が対象  
今年度より看護学科のみ卒後5年同期会が行われる。対象は看護学科1期生
15. 特別な理由による就学困難な準会員を補助する事業
16. 大学幹部との交流・・・病診連携会議の運営について会談
17. 公開講座の実現
18. 生協開設・・・応援する方向で進めていくことが確認された
19. 保育園設立準備委員会の活動・・・生協運営でできないかを検討していく
20. 生涯教育
21. 卒業生祝賀会主催
22. 第3回看護学科卒業生と学生の交流懇談会への援助
23. 第1回湖医会賞授与式・講演会(平成14年10月26日13:00~)
24. 第2回湖医会賞受賞者募集、決定
25. 名簿発行(平成15年1月予定)
26. その他

3. 2000年度決算報告・特別会計、2001年度予算案の資料は右記のとおり

4. 第1回『湖医会賞』の授賞式・受賞講演について

- ・タイムスケジュールが示された
- ・受賞記念講演会は若駒祭実行委員と共催で行う

5. その他

- ・5期生メーリングリストが開設された(2002年8月3日) 詳しくは8頁参照
- ・湖医会第5号の反省
- ・名簿資料提供に関する取り決め(デジタルデータとしては提供しない)  
資料請求の際に必ず申請書を提出してもらおう。名簿閲覧の場合は、事務局にて会員名簿を閲覧。  
宛名ラベル提供を希望の場合は、申請書に目的・対象者等を記入の上発送物を添付してもらい、副会長の承認を得ることになった
- ・平成14年度版会員名簿発行について・・・承諾者のみe-mail アドレスを掲載する

2001年度決算報告書

<収入の部>		<支出の部>	
前戻繰越	3,312,582	事務費	506,446
(協賛銀行)	3,020,654	会議費	44,588
(郵便局)	291,928	記念品	155,925
広告料	1,770,000	渉外費	26,825
本年度会費(新会員)	2,065,000	名簿	15,120
本年度会費	6,891,023	備品	283,870
カード提携手数料	109,600	定期刊行物	1,954,810
利息	512	通信費	410,321
特別会計より	2,050,000	寄付	549,540
		人件費	4,662,033
		退官教授祝賀費	30,000
		会員慶弔費	52,920
		カード人会補助金	8,240
		10年同期会	154,526
		支部組織補助金	100,000
		雑費	34,411
		同窓会館設立準備金	0
		記念事業等積立金	0
		名簿積立金	0
		20周年祝賀費	3,752,997
		次期繰越	2,946,145
	15,688,717		15,688,717

特別会計

1. 記念事業等積立金

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	3,503,198	湖医会誌発行	2,050,000
同窓会より繰入	0	翌年度繰越金	1,455,876
預金利息	2,678		
計	3,505,876	計	3,505,876

2. 同窓会館設立準備金

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	2,501,755	翌年度繰越	2,503,871
同窓会より繰入	0		
預金利息	2,116		
計	2,503,871	計	2,503,871

3. 名簿発行準備金

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	2,001,755	翌年度繰越金	2,003,369
同窓会より繰入	0		
預金利息	1,614		
計	2,003,369	計	2,003,369

2002年度予算(案)

<収入の部>		<支出の部>	
前戻繰越	2,946,145	事務費	300,000
(協賛銀行)	2,545,247	会議費	100,000
(郵便局)	400,898	記念品	190,000
広告料	2,000,000	渉外費	100,000
本年度会費(新会員)	2,100,000	名簿	4,000,000
本年度会費	5,000,000	備品	200,000
カード提携手数料	100,000	定期刊行物	1,800,000
特別会計より(名簿積立金)	2,500,000	通信費	300,000
		寄付	450,000
		人件費	4,500,000
		退官教授祝賀費	10,000
		会員慶弔費	30,000
		カード人会補助金	20,000
		同期会補助金(1期、11期、1期)	250,000
		支部組織補助金	100,000
		湖医会賞	400,000
		卒業祝賀費	100,000
		同窓会館設立準備金	300,000
		記念事業等積立金	100,000
		調査費(保育高等)	100,000
		雑費	100,000
		予備費	900,000
		次期繰越	296,145
	14,646,145		14,646,145

# Have a Nice Baby

西村美穂 (4回生)



昼間は語学を習いに行き、たまに美術館やショッピングに行ったり…。夜は9時間以上の睡眠をとる毎日。ここに執筆する資格と言えば、滋賀医大の4回生である、と言う事位でしょうか。この様な私が筆を取るのには適切ではないと思うのですが、こんな人もいる程度で読んで頂ければ幸いです。

## 海外研修 = one of my turning points

2000年の夏に、藤宮峯子・第1解剖助教授に紹介して頂き、Texas州Houstonにある Baylor College of Medicineに行く機会を得ました。Department of Molecular Biology&Medicine, Dr. Lawrence Chanのラボにおいて小島秀人・旧第3内科講師のもとで指導を受けました。その後1年間大学を休学し、同ラボに留学し、型糖尿病の遺伝子治療に携わっていました。留学が終わって一旦帰国しましたが、妊娠が発覚し“アメリカで出産したい”と思い再度休学し、主人(海外研修中に知り合いました)のいるHoustonに再度戻ってきました。

## アメリカでの出産

アメリカの妊婦の80%はするという無痛分娩が、自然分娩か迷いましたが結局後者に決めました。私の産婦人科医はアメリカ人の女医さんで彼女自身も出産を2回経験しており、医師として、母親として非常に頼もしい方でした。彼女には私が「若い、健康、体重増加が過剰でない」という理由でかなり楽観視されていました。そのせいか分娩時には助産師さんと看護師さんの二人だけしか来てくれませんでした。もっと大勢の人に囲まれて緊迫した出産風

景を思い浮かべていた私にとっては腑抜けでした(結局は二人で十分だったので)。陣痛に耐えられず、何度も“Epidural, please!”と口から出そうになりました。日本から手伝いに来てくれた母は“あんたも大げさやなー”と呆れ、娘が悶絶しているのをよそ目に“絶対麻酔なんか打ったらあかんで”と古典的意見を繰り返して、楽しんでるようにさえ見えました。それでも主人が呼吸のリズムを取ってくれたおかげで、何とか耐えて無事出産できました。痛々しく書きましたが、今では良い思い出です。感謝と猛烈な疲労感が同時にやってきた、貴重な時間だったと思います。ちなみに後で周りの人に聞いたところによると実は極めて楽な分娩だったようです。私にとっては人生で最大最強の痛みでしたが。

## 貴重な主婦生活

前述の通りのんびりとした生活を送っています。今は語学のクラスとバドミントンのレッスンを受けています。英語のクラスでは中南米、ヨーロッパ、アジア etc. いろいろな国の人達と会話をします。スペイン語は有閑アメリカ人マダム達と学びます。ドイツ人コーチによる中国人のためのバドミントンレッスンは非常に丁寧です。中国人の機敏な動きを見ていると“お国芸だったっけ?”とってしまうほどです。1年前のようにラボで働けたらなあ、と思うこともあります。今は今で楽しい毎日を送っています。

## 幸せな育児

初めの2ヶ月は慣れるのに大変で、子供

を折檻する親の気持ちがわかるわ”などと思っていたのですが、今では随分慣れ赤ちゃんと一緒にいるのが楽しくてしょうがありません。私にとっての赤ちゃんはまさに自分の分身1号です。別の肉体・精神であるのに自分のような気がします。そしてかつ不思議な存在です。だから余計楽しいのだと思います。



愛児、大谷弦 Carl君と

## 院内保育

以前湖都通信に産婦人科医の女性の方が院内保育設置について書かれていました。女性の医師が増えてきた今、院内保育があるといかに便利か。帰国後きっと私自身も痛切に感じると思います。声を上げなくとも望んでいる人は多いのではないのでしょうか。学長が今年の年頭所感で“大学内部の協調体制が不可欠”とおっしゃっておられます。子供を預けられるしっかりした環境があるならば、母親を兼ねている医師達はどんなに安心して仕事が出来るとでしょう。また子供がいない医師でも妊娠・出産を計画するに当たりどれほど不安が減るでしょうか。こうしたところで一つの“協調”を生み出すことも可能ではないのでしょうか。

さて、帰国まであと2ヶ月。帰国の前後にしなければいけない事がひとつずつ。帰国前 2つの言語を出来るだけ修得すること。帰国後 日本の運転免許を取ること。どうか一度で受かりますように!

ようやく暑さも和らぎ、秋風も爽やかになってまいりました今日この頃、先輩のみなさまはいかがお過ごしでしょうか。医学をとりまく環境がめまぐるしく変化中、その中で何を学んでいくべきなのかを考え、われわれ学生一同は先輩方の伝統を受け継ぎ、更なる飛躍を遂げるよう頑張っております。

さて、若鮎祭の季節が近づいてまいりました。本年度は、滋賀医大のことをもっと知ってもらおうという思いから、メインテーマを「滋賀医大のたからもの」としました。個人の経験や体験、気持ちといったものは、ほかには得がたい宝物であり、それを垣間見、体験することで滋賀医大のことをより深く知っていただこうと思っています。

医学展企画では、先生方、子供達など、各々が持っている「たからもの」を出展していただき、そこにこめられた想いを共有できたらと考えております。また、小・中・高生を中心に体験授業を行い貴重な体験を通して、「たからもの」を作ってもらおうということで、看護体験やBSL(一時救命処置)体験を開催し、学習、体験できる場を作り上げたいと思っております。

また、特別講演会は、『第1回『湖医会賞』受賞記念講演会』と題しまして、受賞者の井上先生・埴田先生に記念講演をお願いしております。その他にも、多くの人に楽しんでいただけるように様々な企画を考えております(下記参照)。今年も先輩方のお越しを心からお待ちしております。お忙しい中とは思いますが、ご家族、ご友人など是非お誘いあわせの上、足を運んでいただきたいと実行委員一同心から願っております。

若鮎祭実行委員長 松井善典

### 第1回『湖医会賞』受賞記念講演会 10・26(土)

『湖医会賞』とは、滋賀医科大学同窓会「湖医会」の創立20周年記念事業のひとつとして制定されたもので、研究や学生等の教育、地域医療等の臨床・介護福祉その他領域で優れた実践を行い、医学および医療・福祉の向上に貢献した「湖医会」会員に贈られるものです。当日は授賞式に続いて、受賞者による記念講演が行われます。同窓生多数のご参加をお待ちしております。

『湖医会賞』授賞式	13:00～	場所:臨床講義棟第3講義室
『湖医会賞』受賞記念講演	13:30～15:00	場所:臨床講義棟第3講義室
1. 埴田和史先生(教育部門)		
2. 井上慶郎先生(臨床、福祉領域部門)		

### メイン企画 10・26(土)/27(日)

- 展示「滋賀医大のたからもの展」 両日 11:00～16:00 場所:学生食堂  
学生・教官・職員そして医療従事者のみならず患者の方々など、滋賀医大(付属病院)に関わりのある人々の「たからもの」が集まりました。
- 体験授業
 

26日(土) 教官;浅井 徹先生	11:00～12:00	場所:看護第1講義室
27日(日) 教官;藤宮峯子先生	10:00～11:00	場所:看護第1講義室
27日(日) 教官;瀧川 薫先生	11:00～12:00	場所:看護第1講義室
- 医学・看護体験 両日 13:00～ 場所:基礎看護学実習室

### 水上ステージ企画 10・26(土)/27(日)

- 10・26(土)
- King of Athlete 10:30～13:00
  - 軽音LIVE 13:00～17:00
  - アカペラLIVE 17:30～18:30
- 10・27(日)
- 軽音水上ステージLIVE 10:00～11:00
  - QUIZイベント 16:00～18:00
  - Soffet X F.O.H 18:00～19:30 など他にも盛りだくさんです

毎年恒例のフットサル、ソフトボール大会も開催いたしますので、ふるってご参加ください。



## 助教授紹介

(2002.8.30現在)

八田文裕子 (11期生) 立命館大学保健センター 助教授



1991年3月 滋賀医科大学医学部医学科卒業  
 1991年6月 滋賀医科大学附属病院放射線科研修医  
 1993年4月 近江八幡市民病院放射線科医員  
 1996年4月 滋賀医科大学附属病院放射線科医員  
 1999年4月 立命館大学保健センター専任講師(医師)  
 2002年4月 立命館大学保健センター助教授

滋賀医大を卒業し放射線科に入局して以後5年間、放射線科の仕事にどっぷりつかっていましたが、妊娠中に退職し出産後も2年間育児に専念しました。職場復帰を機に、健康管理や内科学(時に産婦人科や心療内科的な要素も!)という全く別の分野に足を踏み入れました。4年目をむかえた現在、ようやく仕事にも慣れ、女性であることを生かした婦人科相談や性教育、「やせ」の健康障害などに取り組んでいます。学生の定期健康診断で、約3万人の間接胸部X線を目の前にした時、たった5年とはいえ、放射線科で学んだことをとても有難く感じます。これからは生活習慣病を予防するための健康教育に、ますます力を入れていく所存です。

住所・勤務先肩書き等に変更がありましたら事務局にご一報ください

## 5期生メーリングリストが開設しました!

庭川光行氏から「湖医会」に開設希望の申し入れがあり、幹事会で承認され8月3日に立ち上がりました。

アドレスは [plasmid@sl.sakura.ne.jp](mailto:plasmid@sl.sakura.ne.jp)入会を希望される方はこちらへどうぞ。庭川光行 [niwamits@mbx.kyoto-inet.or.jp](mailto:niwamits@mbx.kyoto-inet.or.jp)

\*「湖医会」は卒業生で作るメーリングリストの立ち上げと費用のサポートをしています。どしどしお申し込みください!  
 (立ち上げには、いくつかの条件がありますので、詳しくはホームページをご覧ください <http://www.koikai.org>)

## 総会の出欠はがきは

総会に欠席される方は、本人氏名と『委任』をお忘れなく!

23日(水)必着で

## 図書館利用の案内



滋賀医大に籍をもたない卒業生も所定の手続きにより夜8時以降の利用や文献複写の取り寄せも可能になります。  
 希望される方は、事務局までご連絡ください。

注意

## ニセ卒業生の新しい手口!

先日会員からの連絡で、卒業生を装い電話で住所を聞き出す輩がいることが分かりました。事務局にもよく『にせもの』から会員の情報を得ようと電話がかかってくるかもしれませんが一切応じません。そこで今度は直接会員から聞き出そうと新しい手を考えたようです。その方法は下記の通りです。

「 病院・科の××です」と勤務先に電話をかけます。本人につながると、「最近、同窓会に名簿のはがきを返送したと思いますが、事務局に反映されていないので、住所の確認をします」という内容で会員の住所を聞き出します。本人も怪しいと思うのですが、「本当に先輩だったら無碍にできないし・・・」ということで、ついつい教えてしまうことになるようです。同窓生の仲間意識を逆手に取った巧妙な手口です。

- 1、事務局が会員の住所等の確認をどなたかにお願いすることは決してありません。
- 2、もし上記のような電話がありましたら「事務局に直接連絡します」とでも言って即答は避けてください。
- 3、住所変更等の連絡は、Eメール・FAX・はがきにてお願いいたします。  
 また、不審な電話・郵便物等ありましたら、同窓会事務局へ、ご一報を。
- 4、古い名簿等につきましては、お手数ですが、焼却・裁断などのご配慮をお願いいたします。

ご協賛  
 ありがとうございます  
 ございます

日本アルコン株式会社 / 日本シェーリング株式会社 / 扶桑薬品工業株式会社  
 丸石製薬株式会社 / 帝人株式会社

(順不同)